



1. 使用薬剤

- はじめにふじの結実状況を十分に確認してください。極端に着果量が不足している場合は、薬剤摘果は行わないようにしてください。
- 効果発現を高めるため、基本的には単剤で散布してください。

水	100 <small>リットル</small>	500 <small>リットル</small>	1,000 <small>リットル</small>
アプローチ B I（333 倍）	300ml	1500ml	3000ml
劇ミクロデナポン水和剤（1200 倍）	83g	415g	830g
散布量：500～600 <small>リットル</small> / 10 a			

～ 散布時の注意事項 ～

- ① 展着剤アプローチ BI に代えて、ニーズ 1000 倍でもよい。
- ② ミクロデナポン（水）は果皮、果柄や果台から発生した新梢（葉）から多く吸収される。よって、果実及び花そう葉に十分かかるように散布する。
- ③ 散布量が少ないと効果が落ちる場合があるので、多めに設定する。
- ④ 結実が悪い園、毎年生理落果の多い樹や園、極端に樹勢が弱い樹、強い樹は散布しない
- ⑤ 焼酎（20%）1000 倍加用すると効果があがる。
- ⑥ ミクロデナポン水和剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。

単価

ミクロデナポン水和剤	@1,285 円（500g 規格）
アプローチ BI	@1,007 円（500ml 規格）
ニーズ	@1,197 円（500ml 規格）

薬剤費

ミクロデナポン水和剤	@1,067 円 / 500 <small>リットル</small>
アプローチ BI	@3,021 円 / 500 <small>リットル</small>
ニーズ	@1,197 円 / 500 <small>リットル</small>

2. 散布前後の気象条件

- 散布後 1 日は降雨がない日を選ぶ。
- 散布前後に雨が降り、適度な程度の湿度が確保され、かつ最高気温が高いなどの条件下で効果が高い。(散布後数日の最高気温が 15℃以下であると効果が発現しにくい)
- 過剰落果の恐れがあるので、散布直後に雨が降っても再散布はしない。
- 強風時の散布は避け、散布する場合は周辺への飛散に注意する。

3. 散布適期

- 目通り中心果の横経が 10～12mm 程度の時を目安。(参考：青森県では 6～7mm が目安)
- 中心果の測定位置：目通りの高さ
- ふじは生理落果の少ない品種なので最も落果の多くなるタイミングで散布する。
- この時期の果実は 0.5～0.7mm 程度 1 日肥大する。(10 日間で約 5 mm～7mm 伸びる)

4. 散布時期

- 満開後、概ね 14～21 日程度で横経 10～12 mm となる。

- ふじ満開日と散布時期目安

◇ 南部地区：5/3～4 頃 ⇒ 5/17～20

◇ 平岡地区：5/4～5 頃 ⇒ 5/18～21

◇ 北部地区：5/6～7 頃 ⇒ 5/20～23

- 散布時期目安



下記は概ねの目安となりますので、各園の生育状況を良く確認してください。

満開日	14日後		16日後
5月3日	5月17日	～	5月19日
5月4日	5月18日	～	5月20日
5月5日	5月19日	～	5月21日
5月6日	5月20日	～	5月22日
5月7日	5月21日	～	5月23日
5月8日	5月22日	～	5月24日

5. ふじ以外の品種の使用方法

- ① つがる・秋映は過剰落果の可能性があるため、薬剤摘果は行わない。混植してある場合は、極力飛散しないように注意する。
- ② シナノスイート・シナノゴールドの成木に使用する場合は、ふじで使用するのと同様、果実及び果そう葉によく付着するように散布する。
- ③ 地帯によっては、品種間で満開日の差があるので、各園の状況をよく考慮して散布を計画する。
- ④ シナノスイート・シナノゴールドの登録内容は下記のとおりである。

使用目的	対象果樹	使用薬剤	使用方法
摘果	シナノスイート シナノゴールド	マイクロデナポン水和剤 85 (NAC 85.0%)	使用倍率：1,200 倍 展着剤：アプローチ BI 333 倍使用 散布時期：満開後 2～3 週間後

*農薬の登録は、適宜更新されています。最新の登録情報を確認し、適正に使用してください。また、販売メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、購入時、使用時には農薬のラベルを必ず確認してください。

6. 薬剤摘果実施後の対応

- ① 散布後 1～2 週間で落果するものと残るものの区別がつくようになるので、散布 2 週間後頃から摘果作業に入る。
- ② 効果の発現は、側果への養分転流が停止するため、軸部が黄化する。その後、自然落果するので、摘果の必要はない。
- ③ 散布 2 週間後になっても、効果が発現しない場合は、状況を確認しながら早めに予備摘果作業を進める。

7. りんご5月中下旬の薬剤散布について

散布時期：5/20～25 頃

* 散布時期は目安となります。各園の生育状況を良く確認してから散布してください。

散布薬剤：水	100ℓ	
展着剤	10ml	
フルーツセイバー	50ml（前日、3回）	* 注意事項①参照
コルト顆粒水和剤	25g（前日、3回）	* 注意事項②参照
スイカル	100g（カルシウム剤）	* 注意事項③参照

対象病害虫：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病

アブラムシ類・カイガラムシ類

10アール当たり散布量：500ℓ

【注意事項】 * 良くお読みください。

- ① フルーツセイバーに代えて、アントラコール顆粒水和剤 500 倍（45 日前、4 回）でもよい。
- ② コルト顆粒水和剤に代えてモスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍（前日、3 回）でもよい。
（カメムシ類に登録あり）モスピラン顆粒水溶剤は劇物登録薬剤です。購入の際は印鑑をお持ちください。
- ③ カルシウム剤のスイカルは、ビターピット・果実軟化防止や果実からの油上がり予防、果実の日持ち性向上、新梢の徒長抑制などに効果があるので加用する。今回から5～6回加用する。スイカルに代えて、ストピットⅡの500倍を使用してもよい。カルシウム成分の他に有機皮膜補助剤が混合されており、カルシウム補給と併せて幼果期の果面保護効果がある。
- ④ 6月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避ける。

◆ 今後の防除日目安

- 5/20～25 頃（フルーツセイバー + モスピラン） * 前回 12 日後
- 6/5～10 頃（アントラコール + ダズバン DF） * 前回 15 日後
- 6/20～25 頃（ダニゲッターF + キノンドー + オーソサイド + スプラサイド） * 前回 15 日後

6月以降は、概ね15日間隔で散布を進めてください。梅雨期間は、炭そ病・輪紋病の感染が最も拡大します。散布量は常に多めに設定し、死角がないように丁寧に散布してください。